

主体的・創造的に問題解決や探究活動に取り組み、教科等の学習を生かし、豊かな発想を身に付けた生徒の育成

## ～附中トライアル～

埼玉大学教育学部附属中学校

### 1 はじめに

現行の中学校学習指導要領が全面実施となり、3年目を迎えた。教育基本法や学校教育法の改正を踏まえて公示されたこの学習指導要領では、引き続き「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する」ことが求められている。また、そのような教育活動を展開しながら、教育基本法に示された学力を身に付けさせ、個性を生かす教育を充実させるべきであるとされている。

この方針を受けて、中学校では引き続き、各教科等、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の授業を行うことになった。総合的な学習の時間は、平成10年の学習指導要領の改訂において創設され、平成15年に一部改正されたが、今回はその特質や目指すところを、目標として示し、この時間において育成する生徒の資質や能力及び態度を明確にした。

本校では、今回の学習指導要領の改正を受け、これまで実施してきた総合的な学習の時間を見直すこととした。

### 2 本校の総合的な学習の時間『附中トライアル』

#### (1) 基礎講座と総合講座（平成12年度～平成21年度）

本校では、平成12年度から総合的な学習の時間（以降『附中トライアル』とする）を本格的に教育課程に位置づけ、研究実践を重ねてきた。当初は横断的・総合的な学習を展開することを主たるねらいとし、各学年の附中トライアルで学習する内容を〈資料1〉のように位置づけていた。

学年	名称	概要
1年	基礎講座	表現Ⅰ（意見交換等）、表現Ⅱ（レポート・プレゼンテーション）、情報Ⅰ（コンピュータの活用）、情報Ⅱ（図書館の活用）、ピアカウンセリング（自己と他者とのかかわり方等）
2年	総合講座	共修講座、実践講座（福祉交流・環境）
3年	総合講座	共修講座、実践講座（国際理解・情報）

〈資料1〉 附中トライアルの概要（平成12年度）

基礎講座では、その後の総合講座や各教科等の学習で必要とされる技能の習得を主なねらいとし、学級単位での学習とした。また、総合講座は、それぞれの学年の全生徒に対して、身近な課題を取り扱う共修講座を行った上で、個人の興味や関心に応じた実践講座で個人研究を進める手順をとった。例えば2年生は、全員が共修講座で福祉交流と環境についての学習を行い、基礎的な知識や課題の概要を理解し、その後いずれかの実践講座で個人テーマを設定し、探究的な学習を進めていった。

〈資料1〉は平成12年度の例であるが、総合講座の内容については毎年度見直し、取り扱う課題が修正されていった。

(2) 各教科等や特別活動との関連を図った探究活動（平成 22 年度～）

平成 20 年度の学習指導要領の公示を受け、附中トライアルの実施上の課題について検討をしたところ、探究活動が充実した一方で、体験活動に課題があることが挙げられた。また、各教科等の学習内容を活用して課題解決にあたり、附中トライアルで学習した内容を各教科等の学習に生かしたりする場面が明確にできないことも課題とされた。

これを受け、次のような手だてを試みることにした。

- 基礎講座において、職場体験学習（特別活動）の中の探究的な学習を扱う。情報Ⅰ、Ⅱの学習を生かした調べ学習や、表現Ⅰ、Ⅱの学習を生かした受け入れ事業所との調整や学習成果の発表を展開する。
- 総合講座において、教科の学習を発展させて横断的な内容を取り扱う講座を設ける。選択教科の学習との差異を明確にし、総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、教科の学習が生かされるような探究的な学習活動を展開する。
- 総合講座において、環境や日本文化、芸術表現についての探究的な学習を扱う。また、課題解決の場を、宿泊的行事（特別活動）や文化祭（特別活動）の中に設け、体験的な学習を充実させる。

この試みの例は〈資料 2〉のとおりである。

学年	概 要
1 年	職業や自己の将来に関する学習 職業調べ、自己理解、体験活動、成果発表
2 年	自然・歴史・産業・文化についての学習 自然環境や人々の生活の成り立ちについての探究活動、体験活動、成果発表 日本文化についての学習
3 年	日本文化についての探究活動、体験活動、成果発表 芸術表現についての学習 音声表現や身体表現、舞台制作についての探究活動、体験活動、成果発表

〈資料 2〉 附中トライアルの概要（平成 25 年度）

特別活動である文化的行事や旅行・集団宿泊的行事の事前学習と関連づけた附中トライアルとして、体験的な活動や探究的な学習の場を十分に設けることを念頭に置いた。

(3) 運営上の工夫

- ・ 体験活動や校外での探究活動を行うために、附中トライアルを全日実施する『トライアルデー』を年間に 1～2 日設けた。
- ・ 学習の指針とするために、本校独自の生徒用資料として、『トライアルガイド』を作成し活用した。

### 3 本年度の『附中トライアル』

(1) 目標

総合的な学習の時間の目標は、

- ① 横断的・総合的な学習や探究的な学習を取り扱うこと
  - ② 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
  - ③ 学び方やものの考え方を身に付けること
  - ④ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
  - ⑤ 自己の生き方を考えることができるようにすること
- という 5 つの要素から構成されているとされる。

これを受け、本校では附中トライアルの目標を次のように定めている。

今日的な課題を、各教科等の学習で身に付けた知識や技能を生かし、体験的な学習や問題解決的な学習を通して追究することによって、主体的・創造的に問題解決や研究活動に取り組む能力と態度を身に付け、自己の生き方を考えることができる力を身に付ける。

この目標に向けて教育課程を編成し、特に次のような力を育てたいと考える。

＜育てたい力＞

- 学習方法に関すること
  - ア 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する
  - イ 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える
  - ウ 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する
  - エ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
- 自分自身に関すること
  - オ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する
  - カ 自己の将来を考え、夢や希望を持つ
- 他者や社会との関わりに関すること
  - キ 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する
  - ク 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する
  - ケ 環境の保全を考えて行動する
  - コ 課題の解決に向けて社会活動に参画する

## (2) 内容

前述の目標を達成するために、育てたい力を踏まえ、附中トライアルの内容を次のように定めている。

第1学年……職業や自己の将来に関する学習

- ① 職業調べ、自己理解、事業所との調整 [ア・カ]
- ② 職場体験 [ク]
- ③ 学習成果発表 [エ・カ]

第2学年……自然・歴史・産業・文化に関する学習

- ① 志賀高原の自然・歴史・産業・文化についての探究活動 (『志賀プロジェクト』)  
[ア・イ・ウ]
- ② 実地体験学習 [オ・ク・ケ・コ]
- ③ 学習成果発表 [エ・カ]

第2学年……日本文化探究講座

- 京都や奈良の歴史や風俗についての探究活動 [ア・イ・ウ]

第3学年……舞台表現講座

- ① 表現するテーマの設定、脚本の制作 [ア・キ]
- ② 道具・照明・衣装・音響などを用いた表現技法についての探究活動 [キ]
- ③ 学習成果発表 [ク]

第3学年……日本文化探究講座

- ① 京都や奈良の歴史や風俗についての探究活動 [ア・イ・ウ]
- ② 実地体験活動 [オ・ク・コ]

### (3) 他教科等の学習との関連

上記の内容を取り扱うにあたり、他教科等での学習内容との関連を次のようにとらえ、意識的に指導を行った。

教科等	附中トライアルの学習に活かせる内容
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・発表の仕方（レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方・話し方など）</li><li>・情報収集の仕方（インターネット・新聞・図書館・インタビュー・アンケートの作り方など）</li><li>・得た情報の比較</li></ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"><li>・地理的・歴史的・統計的・画像等の資料を読み取ったり、グラフ、地図又は年表等に表したりする</li><li>・社会的事象を多面的・多角的にとらえる</li><li>・フィールドワークによる調査活動（現地調査）</li><li>・我が国の文化を大切にする</li></ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"><li>・表、式、グラフを的確に読み取り、身の回りの事象について考える。</li><li>・身の回りの事象を表、式、グラフを用いて説明する。</li><li>・ヒストグラム等を利用して資料の傾向を読み取る。</li><li>・根拠を明らかにして筋道を立てて考える。</li></ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"><li>・探究的な学習の流れ （課題設定→情報収集→課題の追究→整理・分析→まとめ・表現）</li><li>・調査結果を分析して解釈し、根拠を明らかにして説明する。</li></ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"><li>・我が国や郷土の伝統音楽や文化に対する理解を深める。</li></ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"><li>・他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練る。</li><li>・日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用する。</li></ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"><li>・健康・体力について科学的に理解し、一人一人の健康課題を見つけ追究し、それを日常生活の中で実践できるようにする。</li></ul>
技術 ・家庭	<ul style="list-style-type: none"><li>・PCの活用に関する知識や技能の習得や、それらを適切に活用できるようにする。</li><li>・生物育成に関する技術についての理解を深める。（農産物の生産、酪農など）</li><li>・我が国の衣食住の文化に対する理解を深める。</li></ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本文化を探求し、英語で外国人に発信する。（修学旅行の取組）</li></ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己の生き方を考える</li></ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・自主的、主体的に取り組む態度の育成</li></ul>

## 4 指導の実際

### 第1学年「職業将来」

#### (1) 基礎講座

社会に出るために必要な力として、「職業将来の意義」と題して「働く」ということについて考えた。また、「①発表の仕方・②手紙、メールの書き方・③マナー講座・④コンピュータの使い方・⑤記録まとめの工夫・⑥アポの取り方・取材の仕方」の6コースに分け、基礎的な知識・技能を学習する。

#### (2) 進路適性検査

補助教材を活用しながら進路への意識を高め、「進路適性検査」から自分の長所や適性のある分野を考えながら、保護者からも感想を記述してもらい、意欲や目的をもって学校生活を送れるように学習する。



#### (3) 身近な職業調査

将来の進路を考える上で、実際に職場に働きに出ている大人と触れ合い、職業について調べることにより、「働く」ことや「進路」への興味・関心を高め、視野を広げる。

#### (4) 職業調査発表会

調査した内容からその職業について調べてきたことを発表し、様々な職業についての知識を広げる。



#### (5) 進路学習講演会

職業人の講演を通して、働くことの意義を学び、今現在自分ができることや今後の生き方について考えるきっかけとし、生徒自身の進路に対する意識を高める。



#### (6) 職場体験学習へ向けての取組

- 自己PR書の作成   ○事業所調べ
- 事前打ち合わせ   ○当日の活動計画書作成

#### (7) 職場体験学習

将来の進路選択に向けて、実際の体験活動を通して、望ましい職業観を養い、事業所や施設などを訪問し、そこで働く人々とともに過ごすことで、働くことの大切さや意義を理解するとともに、社会の一員としての意識をもたせる。



#### (8) 職場体験学習発表会

職場体験学習を通して学習したことを発表し、学級で情報を共有する。

### 第2学年「志賀プロジェクト」

#### (1) ガイダンス

学年で林間学校の概要を理解するとともに、附中トライアルとの関わり、進め方を確認する。

#### (2) 共修講座

志賀高原の「自然、歴史、産業、文化」に関わる7つのコースを理解する。7人の教職員がそれぞれコースを担当し、一時間共修講座を行う。それぞれのコースの特色や基礎知識を身に付ける目的で行われた。

- ①自然Ⅰ「自然探究」(動物・昆虫)コース   ②自然Ⅱ「自然探究」(植物)コース
- ③歴史Ⅰ「歴史探究」(戦国)コース       ④歴史Ⅱ「歴史探究」(近現代)コース
- ⑤産業Ⅰ「農業探究コース」               ⑥産業Ⅱ「食文化探究」コース

### ⑦文化Ⅰ「生活文化探究」コース

#### (3) コース選択・個人研究

共修講座を行った7コースの中から希望を取り、25名前後でコースを決定する。それぞれのコースで日程の確認や個人研究の進め方、テーマ設定の方法を確認した後、それぞれがコースに沿った個人研究のテーマを設定する。インターネットや書籍、また関係者から話を聞くなどして情報を集め、個人研究をまとめる。



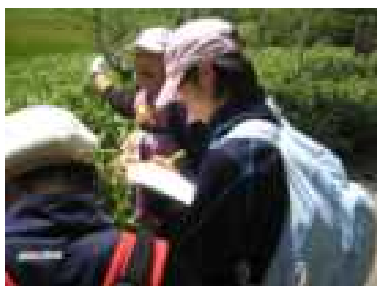
#### (4) 林間学校でのコース別学習

林間学校の3日目を、コース別学習とし、それぞれ7コースに分かれて体験活動や実地調査を行う。できるだけ個人研究のテーマと、林間学校3日目のコース別学習に関連性を持たせ、実際に体験したり、見たりして感じたことやわかったことが個人研究に生きるようにした。

#### 【コース別学習一覧】

自然Ⅰ	ホタルの生態調査 資料館見学 自然とふれあう体験
自然Ⅱ	志賀高原の植物観察 インストラクターを付けてのハイキング
歴史Ⅰ・歴史Ⅱ	川中島古戦場の見学 博物館松代大本營の見学
産業Ⅰ	農業体験 農家の方へのインタビュー
産業Ⅱ	山菜取り 地域の伝統的な食習慣の体験
文化Ⅰ	温泉清掃体験 湯元見学 温泉散策

#### 【コース別学習の様子】



#### (5) 学習成果発表会

林間学校のコース別体験で学んだことを踏まえ、個人研究をまとめる。スライドを作成し、資料や写真なども入れて個人研究の発表を行う。まず、コースごとに行って評価し合い、優秀な個人研究・発表を全体で発表し、学年全体で共有した。

#### 【個人研究発表の様子】



## 第2学年「日本文化探究」

#### (1) ガイダンス

全体で修学旅行の概要を聞き、これからの取組の流れについて理解する。前年度の修学旅行の様子等も紹介し、具体的なイメージを持たせる。

#### (2) 寺社・仏閣・京都の文化調べ

京都・奈良の寺社仏閣と、京都の文化や歴史などで40ほどの項目に振り分け、一人ひとつ担当して個人研究としてまとめる。A4一枚にまとめ、カラーコピーして4～5冊分ファイルにとじ、次年度のコース決めや研究テーマの設定時に活用できるようまとめる。

(3) 講義

資料などで調べただけでは手に入らない情報や、実際に京都で暮らす方々の生の声を聞くため、京都に精通する方々を講師として招き、講演を行う。本年度は株式会社教材研究所代表取締役専務・玉田和久さんとやまだ塾代表・山田容子さんを講師として招いた。

(4) まとめ

2学年で京都について調べた内容についてのまとめを行い、これから3年生になって本格的に始まるグループ研究についての展望を持つ。

### 第3学年「舞台表現講座」

(1) 舞台表現講座ガイダンス

講師を招聘し舞台表現に関する講話をいただき、クラス劇を創り上げるためにどのように取り組んでいくかの見通しをもつ。

(2) クラス劇の準備

探究的な活動にするために、先にテーマを設定し、そのテーマに沿った劇が制作されるよう留意して活動

する。

- ①テーマの設定・脚本の作成・組織づくりを行う。
- ②組織は、監督・助監督・キャスト・大道具・小道具・衣装・音響・照明等とする。
- ③生徒一人ひとりの個性を生かせるように、役割分担を決定していく。



(3) リハーサルを行う

実際に体育館にてリハーサルを行う。講師を招聘し、それぞれの役割について具体的にご指導をいただく。自分たちで考えて実行し、更に良いものを追究していく。

(4) 学習成果発表会

### 第3学年「日本文化探究」

(1) 修学旅行での学習を踏まえ、自己の探究テーマを設定し、学習計画を立てる。

- ①文学に関すること
- ②歴史に関すること
- ③建築・仏像等に関すること
- ④環境・自然に関すること
- ⑤国際文化コース
- ⑥伝統文化コース
- ⑦生活文化コース

(2) 個人やグループのテーマを追究するための方法を考え、調査を進める。

(3) テーマ別学習コースを決定する。

(4) 体験を通して日本文化への理解を深める。

実際に現地に行き、体験学習・調査活動・インタビュー等を通して、理解を深める。

(5) 探究学習の成果を各自でレポートにまとめ、発表する。



## 5 本時の授業について

### 日本文化探究講座「日本人のおもいとは… 日本人として生きるとは…」

#### (1) 主題・ねらいを設定する

##### ○「総合的な学習の時間」の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

##### ○2年生での活動

《京都調べ》・クラス内で決められたテーマを割り振り、各自で調べ、新聞形式でまとめた。

《講演》 ・京都をよく知っていて、京都を愛している気持ちが伝わってくる話であった。  
・京都らしさを形作っているものには、必ず人の関わりがあることを強調されていた。



◎2年生の志賀プロジェクトや京都調べで培った力をさらに伸ばす。

◎京都の人の熱い考えにふれ、自分を振り返る機会とする。

◎学年全体で京都を多面的に見ていくことができるようにする。

◎内容の濃い体験ができる場所にこだわって体験学習場所を選定する。

◎自己の生き方を考えることを最終目標に設定する。



**京都を題材として各班、各自でテーマを設定し、その調べ学習や体験学習を通して、「日本人のおもい」、「日本人としての生き方」、「自分がどのように生きていくか」を考察する。**

#### (2) 講座の流れ

- ①修学旅行の係決めと同時にテーマの希望をとり、班を決定する。→班の大テーマが決まる。
- ②班の大テーマに迫るための、個人のテーマを考える。
- ③個人でテーマに沿った調べ学習を行う。
- ④班内で各自の調べた内容を発表する。
- ⑤班で意見交換し、テーマの練り直しや、もっと調べるとよい点について検討する。
- ⑥班での発表、意見交換を基に、京都の担当者への質問事項や打ち合わせ内容を考える。
- ⑦京都の担当者からの返答を受けて、さらに調べ学習を進める。
- ⑧各コースで中間発表会（進捗状況発表会）を行う。
- ⑨中間発表会を受けて、京都の担当者との再コンタクトの際に質問する内容を考える。
- ⑩京都での体験学習に向けての準備を行う。
- ⑪修学旅行当日 京都における体験学習を行う。
- ⑫修学旅行前に調べた内容、京都での体験学習を基に、班ごとに大テーマのポスターを作る。
- ⑬学年全体でポスター発表を行い、他のテーマについても学ぶ。
- ⑭個人でレポートを作成する。

#### (3) 具体的な日程（予定）

回	月 日	校 時	主 な 内 容
1	5/1(木)	3・4	○班のテーマの細分化と、個人テーマの設定 歴史、職人、人の関わり方、京都らしさ、歴史上の人物、モノや動き、しぐさに込められた意味、活躍している人のルーツ等を切り口とし、各自で考えた後、班で話し合いを行い、個人のテーマを設定する。



2	5/15(木)	3・4	○個人テーマの調べ学習 インターネットを用いた資料は家で準備する。本はいくつか用意するが、本についても基本的には各自の準備とする。
3	5/29(木)	3・4	○調べた事柄を6/14の班内発表会にむけて資料作成 画用紙1枚程度にまとめていく。班内発表会は3～5分程度での発表となることを留意して、発表資料を作成する。内容は「これまでに調べたこと」「今後の研究の進め方」など。
4	6/13(金)	5	○6/14の班内発表会に向けて、準備・最終調整
5	6/14(土) <b>本時</b>	1	○班内発表会 ・個人テーマについて、ここまで調べた内容を発表 ・班で意見交換→テーマの練り直し、今後の進め方検討 ・京都の担当者への質問事項、打合せ事項の検討
6	7/2(水)	5・6	○個人テーマの調べ学習等 班内発表会での話し合いや、京都の担当者からの返答を受けて、さらに学習を進める。
7	7/7(月)	5	
8	7/9(水)	5・6	
9	7/11(金)	5・6	○中間発表会に向けての準備
10	7/16(水)	5・6	○中間発表会（進捗状況発表会） ここまで調べた内容、当日の体験学習ではどんなことを行い、どのように学びを深めるのか等について、コース内での発表を行う。他の班の発表内容等も参考にし、京都の担当者との再コンタクトの際に質問する内容について検討する。
11	9/（ ）	1コマ	○中間発表会を受けて
12	9/（ ）	1コマ	
13	9/18(木)	3・4	○修学旅行での体験学習に向けて準備、最終調整
14	9/25(木)	修学旅行 2日目	○体験学習 ○テーマに沿った場所の見学、調査
15	10/16(木)	3・4	○ポスター作成 この時間で効率よくポスターが作成できるように、修学旅行が終わってから各班で準備（情報の取捨選択、レポート作成等）をしておく。
16	10/23(木)	3・4	○レポート作成 ポスター作成をスムーズに行うためにも、体験学習を行ってから

			時間がたたないうちに、レポート作成を進めておく。
17	10/30(木)	3・4	<p>○学年全体でポスター発表会</p> <p>C棟3階フロア全体を使って、36班全てのポスターを掲示し、ポスター発表会を行う。班を2つに分け、半分が自分の班のポスター前に待機し、見学に来た人からの質問等の対応に、半分が他の班のポスターを見学しに行く形で行う（時間で交代）。</p> <p>全員が他のテーマについても学ぶことにより、自分たちのテーマだけでなく京都を多面的に見て、各自のレポートの考察につなげていく。</p>